

# 抗原定性検査キットの使用にあたって

## はじめに

- ▶新型コロナウイルス感染症の感染者を早期に把握し、クラスター発生や感染拡大の防止を図ることを目的として高齢・障害者施設等の従事者向けに、抗原定性検査キットの配布を行っています。
- ▶使用にあたっては、厚生労働省の研修資料を必ずご覧いただき、別添の取扱説明書に従い適切に行ってください。

【新型コロナウイルス感染症に関する研修資料】

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431\\_00270.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00270.html)

(陽性の場合)

- ・陽性判明者は出勤停止し、勤務先に結果を必ず報告し、速やかにかかりつけ医等の医療機関を受診してください。



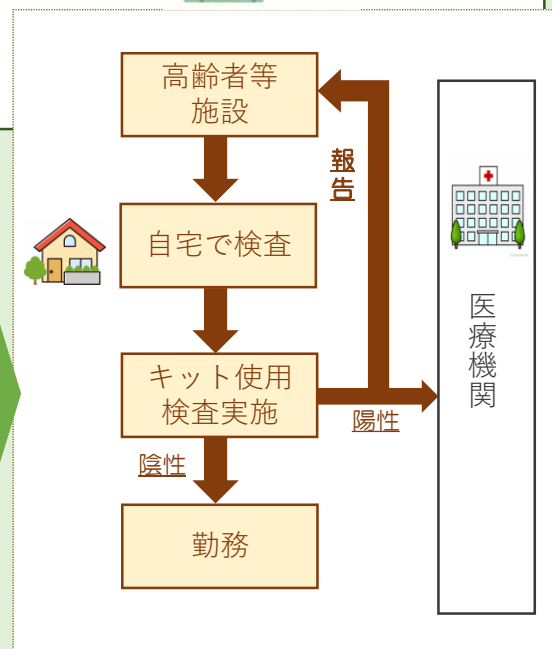
## 検査の実施

- ▶検査キットは、上記研修を受講・説明書をご確認いただき**必ずご本人が自宅で使用**してください。
- ▶**鼻腔検体**により採取してください（鼻咽頭での採取はできません。）
- ▶ご家族と同居の場合、検体を採る時に**飛沫がかからないよう十分に注意**してください。
- ▶使用済みのキットは、説明書に従い適切に廃棄してください。



## 検査結果が陽性だった場合

- ▶この検査自体は確定診断にはなりませんので、**結果が陽性の場合、必ず医療機関にご連絡の上、受診**してください。
- ▶医師の判断で受診時に再度検査を行わず、この検査の結果を確定診断に用いる場合があります。検査結果をスマートフォン等で**画像として保存**しておくなど、受診時に提示できるようにしておいてください。



検査の実施にあたって

## ◎ 千葉市からのお願い ◎

### ○ 検査キットを受け取った本人が、自宅にて必ずご使用ください

- ✓ 送付された検査キットは、自宅に持ち帰り、ご家族等で使用せず、施設等従事者ご本人がご使用ください。
- ✓ 検査キットの譲渡や販売・転売は、絶対にしないでください。

### ○ 検査結果が陽性の場合は、必ず勤務先に報告し、かかりつけ医等の医療機関を受診してください

- ✓ 検査結果が陽性となった場合は、出勤を停止し、勤務先に必ず報告をしてください。また速やかにかかりつけ医等の医療機関に連絡の上、受診してください。
- ✓ 次の方は千葉県新型コロナウイルス感染症検査キット配付・陽性者登録センターで無料で陽性者登録ができます。（令和4年6月12日まで）

<https://business.form-mailer.jp/lp/5eef136e164863>

次の要件を全て満たす方

- ・ 県内在住の方 ・ 50歳未満の方
  - ・ 基礎疾患（慢性閉塞性肺疾患、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、心血管疾患）及び肥満（BMI30以上）のない方・妊娠されている可能性のない方
- ✓ かかりつけ医等がない方は、以下の発熱外来一覧を参考にしてください。  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kenfuku/hatsunetsu.html>



【この検査事業に関するお問合せ先】

【高齢施設等従事者】

介護保険事業課

043-245-5062

【障害施設等従事者】

障害福祉サービス課

043-245-5174

【救護施設従事者】

保護課

043-245-5241

# 抗原定性検査キット取扱説明書

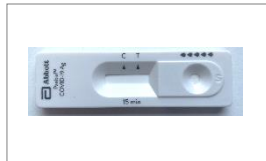
検査前に必ず  
ご確認ください

検査前に必ず以下をご確認いただき、正しく検査を行ってください。

## ① キット内容

直射日光は避けて保存してください

(1) テストデバイス



(2) 抽出液



(3) 検体抽出容器



(4) 検体抽出容器キャップ



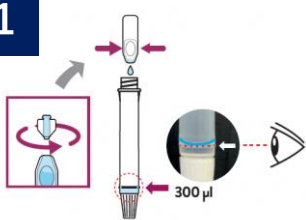
(5) 滅菌綿棒



## ② 検査方法

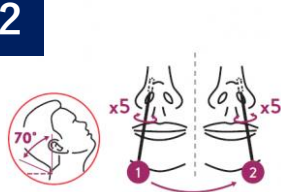
鼻腔検体の採取は必ず受検者本人が行ってください

1



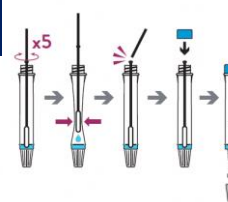
- 抽出液アンブルのタブをひねってねじ切る。
- 抽出液アンブルを垂直に保持し、抽出液300µLを検体抽出容器の上限ライン(300µL)まで加える。  
※全量を滴下しない

2



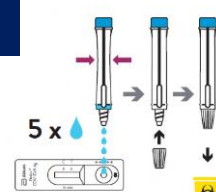
- 頭部をわずかに後ろに傾ける。(70°)
- 滅菌綿棒を鼻孔にゆっくり挿入していき、最初に抵抗を感じる部分(約2cm)まで到達させる。
- 鼻腔壁を擦る様に5回転させる。
- 滅菌綿棒をゆっくりと取り出し、同じ綿棒でもう一方の鼻孔で検体採取を繰り返す。

3



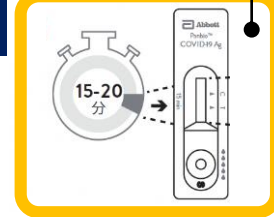
- 抽出液に検体採取後の綿棒の綿球部分を浸し、管壁に押し付けながら、最低5回、回転させる。
- 検体抽出容器の外側から綿球を指で押さえながら、検体を搾り出す。
- 綿棒の軸のブレードポイントで軸を折り、検体抽出容器キャップをしっかりと閉める。

4



- アルミ袋からテストデバイスを取り出し、平らな面に置く。
- 検体抽出容器の滴下ノズルのキャップを開け、試料液5滴をテストデバイスの検体添加部へ垂直に滴下する。  
※反応終了までテストデバイスを動かさない

5

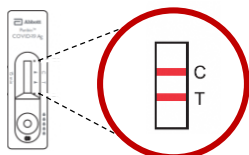


- 15分後にテストデバイスの判定領域を観察し、ラインの有無により判定する。  
※反応から20分以上経過したテストデバイスは判定に使用しない

## ③ テスト結果判定

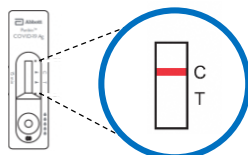
### 陽性

テストライン(T)およびコントロールライン(C)にラインが認められた場合



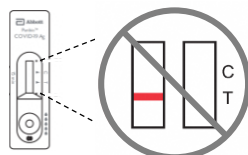
### 陰性

コントロールライン(C)にのみラインが認められ、テストライン(T)にはラインが認められなかった場合



### 判定不能

コントロールライン(C)にラインが認められなかった場合



## 抗原定性検査キット配付事業に関するお問合せ先

お問合せフォームURL：

<https://chiba-testkit.jp/form05>



お問合せメールアドレス：[support@chiba-testkit.jp](mailto:support@chiba-testkit.jp)

■ 使用済み検体抽出容器は滴下ノズルのキャップを閉めてから自治体の分別区分に従って廃棄してください